新 潟 市 報 道 資 料

令和５年９月６日

報 道 各 位

新潟市文化スポーツ部文化政策課

安吾　風の館「安吾と囲碁」展　開催中

旧市長公舎「安吾 風の館」では９月２日から、企画展「安吾と囲碁」を開催しています。安吾が愛用した碁盤や碁石に加え、観戦記や棋風に触れた原稿など、安吾が囲碁へ沈溺していたことが分かる展示内容となっております。

つきましては、展示の取材及び広報活動にご協力をお願いいたします。

記

１　会　　期　　令和５年９月２日（土）から令和５年１２月１７日（日）まで

２　会　　場　　旧市長公舎「安吾 風の館」
（新潟市中央区西大畑町５９２７－９）

３　開館時間　　午前１０時～午後４時

４　休 館 日　　月・火曜日（ただし、祝日または振替休日の場合はその翌日）

５　入 館 料　　無料

６　そ の 他　　「坂口安吾デジタルミュージアム」では、坂口家の歴史や安吾の作品紹介まで、様々な情報を公開しています。
【坂口安吾デジタルミュージアム URL】https://ango-museum.jp/

【問い合わせ先】
新潟市文化スポーツ部文化政策課（担当：森）
電話：025-226-2631　FAX：025-226-0066
E-mail：bunka@city.niigata.lg.jp

安吾と囲碁

2023
9・2 土 ～ 12・17 日

旧市長公舎
安吾 風の館

■ 観覧 無料
■ 開館時間　10：00 ～ 16：00

主催　公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団
新潟市

〒951-8104　新潟市中央区西大畑町 5927 番地 9　TEL & FAX　025-222-3062

安吾と囲碁

2023.　9月　2日 土　―　12月 17日 日

1937 年、安吾は書きかけの長編小説「吹雪物語」をもって京都に出かけ、仕上げたものの納得がいかず、囲碁に打ちこんだ。「碁は長時間にわたって理知を傾けつくす」「勝敗それ自体が興味」（「青春論」1942 年）なので、一時的に「文学と断絶」（「囲碁修行」1938 年）するにはふさわしかったのだろう。

昭和初期、碁界は大きな変革期を迎える。21 世本因坊秀哉が引退すると名跡を日本棋院に譲渡し、これまで続いた家元制の終身名人から、本因坊戦を勝ち抜いた実力者に名跡が与えられる制度へと移行したのだ。

安吾は、愛好家の作家や学者らの交流を図って作られた文壇囲碁会に参加するようになり、碁を通じての交友も広げていった。

愛用の碁盤・碁石や観戦記、棋風に触れた原稿や書簡など、安吾の囲碁への耽溺ぶりを紹介する。

◇おもな展示作品

- ■ 自筆原稿（未定稿）　［呉清源について］　1951 年頃
- ■ メモ　本因坊・呉清源十番碁観戦メモ　1948 年
- ■ 安吾愛用の碁盤、碁石
- ■ 日本棋院免状　二段　1950 年 11 月
- ■ 書簡　野上　彰　坂口安吾宛　封書　1951 年 2 月頃
- ■ 書簡　尾崎一雄　坂口安吾宛　はがき　1953 年 5 月 20 日
- ■ 書簡　頼尊清隆　坂口安吾宛封書　1954 年 1 月 20 日　ほか
- ■ 初出紙　観戦記「本因坊岩本薫・呉清源十番碁」　讀賣新聞　1948 年 7 月
- ■ 初出誌　「呉清源」『文学界』　1948 年 10 月　新潟市立中央図書館蔵
- ■ 蔵書　川端康成著『呉清源棋談・名人』　文藝春秋新社　1954 年　ほか

【和室展示】　坂口綱男撮影

高麗神社（埼玉県日高市）の獅子踊り　2015 年

次回展覧会のご案内

安吾って！？ Part 6

関連イベント

「安吾 風の館」見学と安吾ゆかりの地めぐり

日時：9 月 9 日（土）　13：30 ～ 15：30

集合場所：　安吾 風の館　　参加費：500 円　　定員 10 名

申込・問合せ：安吾の会事務局（新潟・市民映画館シネ・ウインド）

主催：安吾の会　　TEL　025-243-5530

バスのご案内　新潟駅万代口バスターミナル 7 番線から、または観光循環バス乗車「西大畑坂上」バス停下車徒歩 3 分

■ 開館時間　10：00 ～ 16：00　■ 観覧無料

■ 休館日　毎週月・火曜日　祝日または振替休日の場合はその翌開館日

旧市長公舎　安吾 風の館

〒951-8104　新潟市中央区西大畑町 5927 番地 9　TEL & FAX　025-222-3062

安吾と囲碁

坂口安吾が好きなもの、といってまず挙がるのがスポーツで、中学時代から陸上、相撲などに親しみ、文壇仲間とも野球やゴルフに興じている。次いで囲碁、映画。耽溺する癖があるのか、「真昼の決闘」は気に入って十数回も見たと、妻三千代は書いている（「父と子」1985年）。

1937年書きかけの小説「吹雪物語」を持って京都に向かった安吾は、なんとか仕上げたものの納得がいかず、目の前の原稿から逃げこんだのが囲碁であった（「囲碁修行」1938年）。

囲碁は中国に起こり、日本では平安時代から広く親しまれたという。戦国時代では武士の嗜みとなり、江戸、明治時代以降は将棋とともに、庶民の中にも広く浸透した。囲碁は、19×19の格子が描かれた盤上に黒・白の石をおいて、自分の石で囲んだ領域の広さを競うボードゲームだが、「布石」「一目置く」など囲碁用語が慣用句として使われるように、人々の生活にとけ込んでいる。

安吾は、将棋については1947年から49年にかけて、数々の名人戦の観戦記を書いている。一方囲碁の観戦記は、岩本薫と呉清源の十番碁だけであるが、「棋院の大手合いを度々見学した」（「名人戦を観て」1947年『将棋世界』）という。「大手合 おおてあい」とは、棋士の昇段を審査するため、日本棋院、関西棋院などの組織で行われた対局制度のことで、日本棋院では2003年に廃止されるまで行われていた（関西棋院は2004年廃止）。

1937年『囲碁春秋』編集長だった野上彰が企画して、囲碁愛好家の作家や学者らの交流の場ともなった「文人囲碁会」に安吾も参加した。尾崎一雄や川端康成、豊島与志雄、小林秀雄など多くの作家と対戦し、囲碁に係わる作品も残している。『都新聞』の文芸欄に三回にわたって書いた「囲碁修行」1938年では京都で本格的に囲碁にとり組んだ様子を、「文人囲碁会」（初出未詳）では、対戦した各氏の棋風と文学を論じている。「明治開化安吾捕物帖」1950～52年 その七「石の下」は、珍しい囲碁の手筋を題材にしており、「安吾新日本風土記」では「碁好きにはなつかしい地である」と、碁盤や碁石の産地として宮崎を紹介している（宮崎県の巻　1955年）。

将棋の名人や挑戦者を“勝負師”の対決として客観視する観戦記を書いているのに対して、囲碁の観戦記は趣が違うようだ。当時圧倒的な実力で「棋聖」とも称された呉清源についても、「一匹の虫を踏みつぶすにも、虎が全力を尽くすが如くである」（「呉清源」1948年）と勝負に際しての非人情を評価しながらも、宗教に入れこむ人間呉清源の面も受入れている。また「市井閑談」（1939年）や「明日は天気になれ」（1953年）では、囲碁を通して普通の人の姿を描き出している。

「このまる一年半、ゆっくりした気持ちで石を握ったことはない」（「私の碁」1948年）という言葉は、安吾の日常の中に囲碁があったことを示している。絶筆となった「砂をかむ」は、尾崎一雄に頼まれて『風報』（1955年3月号）に書いたものであるが、その原稿を受けとった尾崎の手紙で「この頃僕は碁が強くなったが、貴兄は打たぬから弱くなったでせう、負かしたいが桐生は遠いので残念です」（1955年2月8日付はがき）とある。

尾崎はまた、安吾の人となりを「大きなことを考へてゐながら、小さなことを気にする」面があり、それで「碁が私より強かったくせに」「考へ過ぎて負けるのだった」（『坂口安吾選集』第一巻　月報4）と評している。

女将が囲碁好きで、数々の名対局も行われた小石川・もみじ旅館を通して手に入れた碁盤や碁石は、安吾自慢の品であった。宮崎産の榧かや で作られた碁盤に、同じく宮崎産蛤の白石、那智の黒石。東京・蒲田の坂口家で、兄弟で打ち合ったであろう碁石とあわせて紹介する。是非、囲碁に耽溺する安吾の姿を思い描いていただきたい。

安吾と囲碁

2023年　9月2日（土）～　12月17日（日）

No.	種類	作者名	作品名	年	出版社	備考	所蔵者
1	自筆原稿	坂口　安吾	未定稿［呉清源について］	1951年頃		専用原稿用紙4枚 ペン	
2		坂口　安吾	未定稿［呉清源について］	（不詳）		専用原稿用紙 ペン	
3		坂口　安吾	豊島さんのこと	1955年		コクヨ原稿用紙 鉛筆	
4	メ　モ	坂口　安吾	本因坊呉清源十番碁観戦メモ	1948年		讀賣新聞文化部原稿用紙 鉛筆　4枚	
5	初出紙	坂口　安吾	本因坊岩本薫・呉清源十番碁	1948年	讀賣新聞	7月8日、9日	
6	初出誌	坂口　安吾	呉清源	1948年	文学界社	第2巻 第10号	市図書館
7	書　簡	野上　彰	安吾宛　年賀状	1951年		文壇本因坊戦案内	
8		野上　彰	安吾宛　封書　2月頃	1951年		第一回文壇本因坊戦	
9		野上　彰	安吾宛　はがき　8月21日	1953年		文人囲碁会案内	
10		尾崎　一雄	安吾宛　はがき　5月20日	1953年		文壇本因坊戦	
11		尾崎　一雄	安吾宛　はがき　2月8日	1955年		『風報』寄稿への礼	
12		頼尊　清隆	安吾宛　封書　1月20日	1954年		文人囲碁会など	
13		もみじ旅館	安吾宛　封書　6月9日	1950年		碁盤碁石について	
14	遺愛品		碁盤、碁石	／		安吾所蔵	
15			碁石	／		蒲田・坂口家旧蔵	
16	免　状		日本棋院　二段免状	1950年			
17			日本棋院　三段追贈免状	1955年			
18	蔵　書	鈴木為次郎	明解図式囲碁大事辞典 互先編	1934年	誠文堂	上・下巻	
19		高部　道平	碁道史談叢	1944年	創藝社		
20		呉　清源	囲碁全集　死活と収束	1949年	文藝春秋新社	第1巻～第10巻	
21		高部　桂二	碁の打ち方	1951年	大泉書店		
22		相田隆太郎	互先碁の打ち方	1953年	大泉書店	献辞署名	
23		川端　康成	呉清源棋談・名人	1954年	文藝春秋新社	献辞署名	
24		坂口　安吾	「豊島さんのこと」(月報27)	1955年	筑摩書房	『現代文学全集』33	
25	資　料	頼尊　清隆	「花妖」の頃から	1956年	東京 創元社	『坂口安吾選集』月報3	
26		尾崎　一雄	坂口安吾さんについての断片	1956年	東京 創元社	『坂口安吾選集』月報4	
27		尾崎　一雄	碁でのつき合い（月報1）	1967年	冬樹社	『定本坂口安吾全集』	
28		座談会	呉・藤澤十番碁を語る（7/7）	1951年	讀賣新聞	加藤信·木村義雄・安吾	
29	パネル	写真	呉清源・坂口安吾　対局	1948年			／
30		棋譜	呉清源・坂口安吾　対局	1948年		『月刊読売』5月号掲載	／
31		写真	本因坊岩本薫・呉清源十番碁	1948年		坂口安吾観戦	／
32		写真	文人囲碁会	（不詳）			／
33		写真	坂口安吾追悼囲碁会	1955年			／
34		新聞記事	呉清源死亡記事　12/2付	2014年	朝日新聞	1、38面	／

＊作品保全のため複製を展示する場合があります。　＊所蔵者欄 ： 市図書館 ＝ 新潟市立中央図書館　空欄は、新潟市・坂口安吾遺品資料

【和室　写真展示】

坂口綱男 撮影　高麗神社（埼玉県日高市）の獅子踊り　2015年

［関連事業］

「安吾 風の館」見学と安吾ゆかりの地めぐり　9/9(土)　13：30～15：30

申込：新潟・市民映画館シネ・ウインド　(tel 025-243-5530)　電話にて申込。　参加費500円

旧市長公舎　安吾 風の館　〒951-8104　新潟市中央区西大畑町5927番地9　TEL&FAX　025-222-3062